

届け 世界の果てまでも

令和3年11月9日

No. 43

文責 校長 飯久保一男

ハラスメント

今ではいくつあるのか分からないほど「△△ハラ」「××ハラ」というハラスメントがあります。

私は校長という立場ですので、偉くなったつもりで話をしたり、対応したりすると、パワハラやセクハラ、スクハラ（スクールハラスメント）などになってしまうことも考えられます。自分を戒め、子どもたちや教職員と付き合っていくことが大切だと思っています。ただ、何せ、小笠原生まれの小笠原育ちですので、甲州弁（西郡弁）丸出し、荒っぽい口のきき方をしてしまうことがあります。威圧的になってはいけないと気を引き締めています。



…そうはいつでも、立場上、言いにくいことを伝えなければならないこともあります。特にコロナ禍において、教職員の意に沿わない判断をしなければならぬこともあります。立場でものを言うてはいけぬと戒めていますが…。

ハラスメントとなる事例の共通点は次のようなことだとあげられています。

- 1 加害者は、自分の優位な関係性や権力的な立場を利用している。
- 2 加害者は、相手がどれだけ苦しんでいるかが理解できていない。相手が心の傷を負って、長く苦しむ可能性があることも理解できていない。
- 3 加害者は、「この程度のことは昔からあったことだ。人間関係の中で普通にあることだ。この程度のことで何をそんなに騒いでいるのか。みんなやってることじゃないか。」などと思っている。
- 4 加害者は、「自分に悪気はない」と思っていることが多い。それどころか「相手のため」とか「全体のため・世の中のため」などと思込んでいることが多い。
- 5 被害者は、「自分が悪いのではないか」と思っていることが多い。また、被害を訴えることで、被害者がますます不利な立場に追い込まれることが多い。これらの理由で、被害を訴えられず1人で苦しみ続けることが多い。

様々なハラスメントは、ずっと前からありました。最近になって始まったわけではありません。以前は、ほとんどの場合が、大した問題にはなりませんでした。

- 部下が上司に叱責されたり罵声を浴びせられたりするの仕方がない
- 女性が体を触られたり性的なことを言われたりするの魅力があるからだ
- ちょっとくらの受動喫煙でうるさいこと言うな
- 酒の席で上司から飲めと言われたら飲むのが当たり前

このような受け止め方をされていました。

しかし最近、人々の意識が高まり、職場での上下関係・権力の有無・立場の違いなどはもちろんありますが、お互い一人の人間であることには変わりはなく、優位的な立場によるハラスメントは許されないという認識が広まっています。「あっても仕方がないこと」から「許されないこと」になったのです。



前号で、大人が子どもへの横柄な態度のとき「子どものため」「しつけのため」と言い訳をするという内容を書きました。実は、裏面のハラスメントの共通点の「相手のため」とか「全体のため・世の中のため」というのは、同じことになります。

裏面の5つの共通点の「加害者」を「親・教師」と置き換えても当てはまります。

- 1 親・教師という優位で権力的な立場にいる。
- 2 子どもが今どれだけ苦しんでいるか、そして将来にもわたって苦しむ可能性があることを理解できていない。
- 3 この程度のことは親子なのだから、教師と教え子の関係なのだから、当たり前と思っている。
- 4 親・教師は「子どものため」「しつけのため」だと思い込んでいる。
- 5 多くの場合、子どもは自分が悪いから叱られるのだと思っている。また、下手なことを言えばますます叱られると思っている。子どもが自分から被害を訴えるのは難しい。



前号からの繰り返しになりますが、「子どものため」「しつけのため」というのは、親にとっても教師にとっても都合のいい言い訳にすぎない言葉のようです。本当は自分のためであり、自分のストレス解消、自分の攻撃性の発散、子どもに対しての自分の欲望（行儀いい子、行儀いいクラスなら自慢できるなど）の達成、自分の優位性の確保のためだということです。

教育評論家の親野 智可等さんのコラムです。一部を抜粋しています。辛口です。

あるイベント会場で食事の配膳をしているとき、子どもが豚汁のお椀を落として、床を汚してしまいました。すると、その子の母親が、「何やってるの。気をつけなきゃダメでしょ！」と叱りつけました。でも、もしこの相手が大人だったら、そんな言い方はしなかったはず。「〇〇さん、大丈夫ですか？服、汚れなかったですか？」などと言いながら、甲斐甲斐しく片づけを手伝うのではないのでしょうか？

夏休みのイベントに参加した子どもが筆記用具を忘れ、父親に叱られているのを見たこともあります。父親は、「家を出るときに言っただろ。なんでそんなにだらしないんだ！」などとぐちぐち叱っていました。でも、その父親も、職場の会議中に同僚が「あ、資料を忘れた」と言えば見せてあげるはず。「筆記用具を忘れた」と言えば、にこにこしながら「どうぞ、これ使ってください」と言いながら貸してあげるのではないのでしょうか？

あなたは、大人に言えないようなことでも、子どもには言ってしまう、そういう人ではありませんか？もしそうだとしたら、それは何を意味するのでしょうか？

その程度の人間に過ぎないということの意味しているのです。あなたは強いものにはへつらい、弱いものには威張る、その程度の人間に過ぎないのです。

そういう意味で、子どもは親の真の姿を映す鏡なのです。

